

アナログプレイヤーの比較試聴(18)

—モーツアルトを聴く(18)—

1. 始めに

前報(17)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はアンサンブルの曲です。

EURODISK OQ-7327-K

モーツアルト 幻想曲へ短調

三つの4声フーガ

アダージオとアレグロ

三つの4声フーガ

ルドルフ・バウムガルトナー指揮ルツェルン弦楽合奏団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と Grrad401 では、TELDEC、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

ThorensTD124 の再生では、幻想曲、4声フーガ、アダージオとアレグロなど、いずれもモーツアルトとしては、伝統的な様式の曲ですが、これらが、滑らかに艶のある音でしみじみと聴かせてくれます。

LINN LP-12 の再生では、音場感と定位感、ならびに高弦から低弦までの質感の繊細な表現が的確に再現されています。

Grrad401 の再生では、LINN LP-12 の再生から繊細さでは及びませんが、滑らかなウームトーンで聴かせてくれます。

以上のように、これまでの試聴で、3システムの特徴が分かってきましたので、LINN LP-12 のシステムはそのままにして、ThorenTD124 と Grrad401 のシステムの再生経路を替えてみることにしました。

ThorensTD124 は Marantz7 タイププリ経由を止めにして、ZANDEN Model120 へのアンバランス入力とします。

TD124→ZANDEN Model120(アンバランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは SPU Synergy、アームは RMG212、フォノステージは ZENDEN Model120 のアンバランスフォノ入力段です。

Grrad401 は、ZANDEN Model120 経由を止めにして、Maranz7 タイププリ経由も考えたのですが、もう少し切れ味のよいすっきりとした音を期待して、47 研のフォノイコ 4718 経由としてみました。

Garrad401→47 研 4718→Brooklyn DAC+(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは ZYX R100-EX、アームは FR-64S、フォノステージは 47 研 4716 へのダイレクト入力です。

この条件で ThorensTD124 と Grrad401 を聴き直してみました。ThorensTD124 では TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

ThorenTD124 では、SPU らしい厚みのある力強い音は後退しますが、SPU らしい艶のある音質は残しながら、ディテールの再現や繊細な表現は同じフォノイコライザーを使用する LINN LP-12 に近づきます。

Grrad401 では、ZYX R100-EX のウオームトーンと 47 研 4718 のすっきりとした音のブレンドで、Grrad401 としては、これまでになかった繊細な表現もできます。

4. まとめ

3 機種 3 様の再生パフォーマンスが確認できましたが、モーツァルトとしては、伝統的な様式の曲で、それぞれの魅力のある音で表現してくれました。さらに ThorenTD124 と Grrad401 は再生経路を替えてみたところ、この場合も魅力のある音で表現してくれました。

以上